
満洲の記憶

創刊号

創刊の辞 「満洲の記憶」研究会編集委員会

『満洲の記憶』創刊によせて 天野博之

大連の記 水野直房

大連神社調査記 大野絢也

大連神社記念資料館所蔵文献目録
..... 「満洲の記憶」研究会編集委員会編

寄贈資料目録

2013年度「満洲の記憶」研究会活動記録

おしらせ

「満洲の記憶」研究会

2015年3月

創刊の辞

「満洲の記憶」研究会編集委員会

「満洲の記憶」研究会はこの度、ニューズレター『満洲の記憶』を刊行することとなった。本誌の創刊にあたって、本会の設立経緯や目的、主な活動内容について紹介したうえで今後の展望を述べたい。

まず本会の設立経緯を紹介する。本会結成のきっかけの1つとなったのが、編集委員会のメンバーの一部が一橋大学佐藤仁史ゼミの一環として行ったいくつかの活動である。佐藤ゼミでは中国東北地方の歴史に関心を持つ学生が複数いたため、ゼミの活動の一部として、2011年末から2012年にかけて中国残留邦人に対し計6回12時間以上に及ぶインタビューを実施した。このインタビューでは、満洲経験者に対して口述調査の手法を実践するとともに、「満洲国」時代から1980年代にいたる中国東北地方の生活史を聞き取ることができたのが成果であった。また2012年3月には、佐藤ゼミの有志が台湾中央研究院の林志宏氏とともに中国東北各地の現地調査を企画した。これらの活動を通じて、記述史料を補うものとしてのオーラルヒストリーの可能性や、引揚者が個別に所蔵する文献の収集・保存活動への重要性・緊急性を認識するに至った。

インタビューや文献収集の重要性・緊急性とは、満洲経験者の高齢化や引揚者団体の解散にともなって、様々な記憶や記録が散逸しつつある現状を指す。戦後70年を迎え、失われつつあるのは満洲経験の記憶のみならず、手記や写真、回想録などといった種々の史資料も含まれている。廃棄されたり、整理されぬまま埋もれたりしている史資料が相当あることが関係者との交流の中から明らかになった。このような状況に対して、本会編集委員会の菅野智博と湯川真樹江は、満洲経験者に対する聞き取りや民間に散在する史資料収集を進めるために、様々な満洲帰国邦人団体の会合に参加しながら、活動に賛同する若手研究者や大学院生を募って共同研究を進めることを着想した。そして2013年7月に本会を結成し、満洲に関わる様々な記憶を体系的に収集・分析しつつ、その成果を関係者に発信していくことを活動の趣旨とした。

本会が様々な記憶を収集するにあたっては、蘭信三、井村哲郎、加藤聖文、坂部晶子、山本有造などの諸氏によって進められてきた満洲引揚者・中国残留邦人のライフヒストリー研究や関係史料の整理・編纂に関する研究蓄積や手法から多くを学んだ。その上で、近現代中国東北

地域史と戦後史との連続性を追究した聞き取り調査や民間に散在している団体・個人の史資料の収集の2点に力点を置いて活動を進めている。結成後から現在に至るまで進めてきた本会の活動内容の詳細については本号掲載の「2013年度『満洲の記憶』研究会活動記録」を参照されたい。その活動内容は以下の①～③に大別することができる。

① 満洲経験者へのオーラルヒストリー調査を通して、様々な記憶を収集・記録すると同時に、記憶のあり方や継承方法について検討する。

② 団体や個人が所蔵する様々な関連史資料を収集し、その整理や保存を行う。

③ 研究成果を国内外の学界や一般市民に積極的に発信する。

①については、これまでの1年間(2013年8月～2014年7月)において、本会は多くの満洲経験者のライフヒストリーをうかがうことができた。この活動においては満洲の多様性をより浮き彫りにするために、各都市関係者(大連、新京、ハルビン、龍井など)、開拓団関係者、中国残留邦人、満洲国軍関係者など多岐にわたる対象者に詳細な聞き取りを実施してきた。

②については、様々な団体や資料館、個人の協力のもとで史資料の収集・整理を行ってきた。関東周辺地域のみならず、三重県、岡山県、山口県、大分県など全国にわたって活動を展開した。本号掲載の「大連神社記念資料館所蔵文献目録」

はその重要な成果の1つである。

③については、関係者のご厚意により近現代東北アジア地域史研究会の『News letter』や、台湾国史館の『国史研究通説』などに研究会の活動内容や成果の一部を紹介する機会を頂いた。また本会では今後、インタビュー記録や史資料収集の状況、目録作成状況などの活動成果を本誌に掲載し、国内外の関係者に積極的に提供していきたいと考えている。

最後に本会の今後の展望について簡単に述べておく。本会では、今後も継続して聞き取り調査や史資料の収集・整理に力を注いでいく予定である。前者については、個々の経験者への丁寧な聞き取りを行うと同時に、地域や職業、学校、年齢などの違いにも注目し、満洲の記憶の多様性を明らかにしていきたい。後者については、団体や個人所蔵の貴重な史資料が継承されるよう各地に赴いて収集・整理・保存活動を進めていく予定である。この2つに加えて重視しているのが研究成果の発信である。活動のなかで得られた様々な記憶や記録を多くの研究者や一般市民が利用できるよう、口述記録や目録などの形で公開していくことを目指している。また、満洲の記憶を多角的な視野からとらえるために、中国近現代史のみならず、ロシアやモンゴル、朝鮮、日本をフィールドとする研究者とも交流したい。そのための場として定期的に例会を開催し、学術交流を進めることも予定している。

本会の発足から1年半が経過した。本誌を刊行することができたのは関係者各位のご厚意・ご理解によるところが大きい。この場を借りて心より感謝の言葉を申し上げる。若手研究者が主体でたちあ

げた研究会であるのもとより至らない点は多々あるかと思われるが、若手の強みを生かして積極的に活動を展開していきたい。

『満洲の記憶』創刊によせて

満鉄会情報センター専務理事 天野博之

◇ 昭和20年8月15日

この日を、私は吉林市江北在満国民学校4年生として迎えた。

午前中の作業を終えた私たち4年生以上は、重大放送があるということで、体を洗って講堂に整列した。ラジオから流れる天皇の声は今までに聞いたことがないイントネーションで、ほとんどその言葉を聞き取ることはできなかった。

教室に戻って担任の女の先生から、日本が戦争に負けたこと、明日から休校になることを涙ながらに告げられて、家路についた。途中で出会った「満人」の物売りの車の梶棒に早くも青色の旗（青天白日旗—中国国民政府の旗）が掲げられていたことを憶えている。

日本内地では、敗戦を終戦と言い換えたが、満洲はもちろん、外地ではそれまでの日本人の地位は現地人と一日にして逆転したのであり、「敗戦」という言葉こそがふさわしい。

◇ 失われた記憶と記録

あの日から、間もなく70年を迎えようとしている。

当時10歳だった私も、間もなく満80歳である。当時働き盛りの37歳だった父が20年前に亡くなったように、満洲を肌で知っていた「現役」の人々の多くは鬼籍に入ってしまった。満鉄社員だった父は、13年間の満洲時代のことを多くは語ろうとしなかった。そのような人は多い。

昭和30年代前半に大学生生活を送った私も、満洲帰りであることを積極的には語らなかった。「帝国主義的侵略者」のお先棒を担いでいた者の子弟、という負い目があったからである。私が学んだ歴史学の教室は、「進歩」的な空気が充満していた。

このようにして、貴重な記憶と記録の数々が埋もれてしまったことは、今考えると、非常に残念である。

◇ 心強い「満洲の記憶」研究会の発足

今ここに、大学院生からなる「満洲の記憶」研究会が誕生したことは、大変喜ばしいことである。満洲の記憶を記録するときは、今をおいてはない。新鮮な視点から、多種多様な満洲の記憶を掘り起こしていただきたい。

「満洲の記憶」研究会が主催して11月2日の一橋大学文化祭で行われた、満洲からの帰国者3人の報告とその後の質疑応答は、会場に入りきれない人が出る大盛況となった。

私たち報告者と同世代の方も多かったが、2割ほどは若い世代であるように見受けられた。私の娘たちは満洲に関心はないし、彼の地で生まれ幼年時代を過ごした4人の弟も、満洲への関心はほとんど持っていない。そんな時代の風の中、研究会の誕生は、まことに心強い限りである。私もできるだけのお手伝いをさせていただきます。

今後の会の活動の中心は、当面、満洲に在住していた人、引揚げてきた人からの聞き取り調査になるであろう。ただ心していただきたいのは、聞き取り対象者の記憶の喪失とその補填の問題である。わかりやすく言えば、記憶の間隙を、知らないことは知らないと言ってくれればよいのだが、他人の話、あるいは読んだ文章を自らの体験と思いついで語ることである。もちろん悪意からではないのだが。政治家や文学者などと異なって、資

料の少ない極めて個人的な体験を検証することは非常に難しい。この点を、どう克服するか。場数を踏むこと、時代相、時の環境を考慮して聞くことが重要になるだろう。活字として発表する場合、一人歩きされることを念頭に置いておいていただきたい。

◇ 今後の満鉄会

昭和21年末に発足した満鉄会(財団法人を経て現在は満鉄会情報センター)は、2016年3月をもって解散することが決定している。最盛期には1万数千名の会員を誇ったが、会員の高齢化とともに、会を支える後継者難と、財政的な逼迫が解散の主要な原因である。

満鉄は、満洲の日本勢力の草分けであり、約70年の歴史を持つ満鉄会は、旧満鉄社員の精神的支柱、満鉄資料の返還運動、あるいは厚生年金受給のための証明書発行などを担ってきた。250号を数える『満鉄会報』は貴重な記録の宝庫である。

解散後は、所蔵資料を国会図書館などの公的機関に移譲するので、今後の満鉄、満洲研究の一助としていただきたいと念願している。

追記

基本的には西暦を使用する私ですが、1か所を除いて和暦を使用しました。昭和20年は昭和20年で、決して1945年ではありません。

大連の記

赤間神宮名誉宮司 水野直房

私は昭和9（1934）年9月6日、大連神社宮司水野久直の長男として、大連で出生、同16年4月南山国民学校へ入学、この春から小学校から国民学校と名称が変りました。この年の12月8日大東亜戦争が開戦、早速軍事教練が正科に加えられ、樫の木の木銃を手に陸上の演習、オールを手にカッターの演習など運動の苦手な私は、冬の正科であった鏡ヶ池でのスケートも全く駄目で、ずいぶん泣かされました。唯一つ図画だけは得意で、いつも教室に張り出され、軍国少年の私は緒戦にシンガポール沖で英海軍の誇る戦艦プリンス・オブ・ウェールズとレパルス2隻撃沈の報を受け、画用紙3枚を張り大画面を描いて張り出された興奮を忘れることは出来ません。高学年になる頃校舎1階の教室は全てトウモロコシのばら積みの倉庫と化し、授業はこれをスコップでかきまぜる仕事に変りました。この頃大連神社への百日祈願も行われ、最も尊敬してやまなかった恩師岩岡昇先生を始め、若い方々が次々と応召され、戦地に赴かれる毎日でした。戦局は悪化し大連港にも爆弾が落されたのです。大学を出ても仕事の無い青年が内地から続々と大連に移られ、私の自宅はいつも書生さんで一杯でした。

昭和20（1945）年8月15日正午、終戦の詔勅を夏休みで社務所に居た私は父や職員一同と一緒に拝聴、真空管のラジオは雑音が多く聞きとり難い有様でしたが、放送が終るや否や皆涙を流しているのです。子供の私には判りません、すぐ父の居る宮司室に行きますと、父もハンカチを目に当てています。私「どうしたの」父「お国が戦争に負けたのだよ」初めて敗戦だと判ったのです。この年の9月6日私の誕生日を祝って、母がコロッケを作り始めた時、台所のドアを開け、肩に自動小銃を掛けた若いソ連兵が2人、俄かに土足で上がって来ました。余りにも突然でビックリしていると腕の時計を指差して、「ダワイ、ダワイ」と言います。お金や時計を出せという有様に、当時3才の末弟は大泣きです。これを見た兵士はいささかひるんだと見えて、オーマレンキ（おゝ坊や）と言い頭をなでて立去りました。この日から大連は暗黒の街と化したのです。爾来いつも私の誕生日には何か起る……というジンクスが始まりました。常に白衣袴で通した父のもと、大連神社は暴動に遭いませんでした。しかし密告などで八路軍に3回投獄された父は、ソ連軍司令官に舞楽を見せるや日本の古典に驚嘆し、毎週日曜日にソ連軍

高官が相次いで参観、ついにソ連兵慰問の軍楽隊一行がやって来てビックリ。同時に彼らの唄うボルガの船歌は流石に本物、未だに忘れることはできません。この間、日本の捕虜脱走兵もずいぶん保護し無事に帰国させました。食糧を得るために衣類を売りに広場に立ち、中国人から餅子（ピンズ＝トウモロコシのパン）を仕入れて綿袋に包み、広場へ売りに行きました。売れずに半泣きになっている私を見て近くのお店の主人が全部買って下さり勇躍帰宅して父に報告したことなど、敗戦後の悲惨な大連の記憶は今も生々しく蘇ります。国民学校も中国人の子供らに暴行される為、自然廃校になりました。

昭和 22（1947）年内地への引揚げが開始され、大連市民は 3 月に集中、ソ連軍保護のもと大連神社御神体を背に負い 7 家族 51 名の神職家族全員 3 月 11 日高砂丸（1 万トンの病院船）で大連港を発ち、14 日未明佐世保沖に碇泊、同日ハシケに乗せられ針生島の収容所（元海兵隊兵舎）に入り初めて祖国日本の美しい山を仰ぎ、土を踏んだのです。戦後初めて頂く白いお米の御飯に味噌汁、ここまで書いて来ますと、もう涙があふれて仕方ありません。80 才を迎えた今もこの日の感動をどうして忘れることが出来ましょうか。

父と共に一家は一先ず福岡の筥崎宮に幡掛正木宮司様の御配慮を得て 2 ヶ月、戦災に焼失した赤間神宮の御復興を托された父と共に下関に着任したのが 6 月で

した。既に 6・3・3 学制の開始で新制中学校の第 1 期生。焼け残った 1 棟の廻廊から始まりました。お弁当を持って行けなくて昼休みは帰宅し、大急ぎでおかゆをすすり、学校へ戻る……という毎日でした。何しろ廻りもみんな焼け出されているのですから。履物もワラ草履、学生服も着たきり雀でした。小学校の教室を借りてのスタート。しかしみんな明るかった。それこそノートや鉛筆も無かったけれど、勉強しました。先生方も若く一生懸命教えて下さいました。3 年生の時にやっと木造 2 階建ての校舎が竣工。高校は当初地元の県立校に合格したのですが上京の志止み難く、2 年の夏休みに編入試験を受けて東京都立駒場高校に進み、憧れの東京生活が始まりました。何と高校で大連南山校の同級生と再会、担任は一高東大御出身で日本史の菱刈隆永先生。何と御尊父は初代関東軍司令官で和平派の菱刈隆閣下という実に不思議なめぐり合せを体験して卒業。父祖の道統継承の為、国学院大学へ進み、恩師鈴木敬三先生の御指導を仰いで有識故実に没頭、傍ら宮内庁楽師東議文隆師に龍笛、笙を楽長蘭広茂先生に学び、大学祭では戦後初の舞楽公演を実現した感激は今も忘れることが出来ません。卒業と同時に宮内庁書陵部に拝命、貞明皇后実録の編修と皇室制度の調査に従事、正に大学院の如き貴重な体験を経て、昭和 34（1959）年 4 月 10 日、時の皇太子殿下（現天皇陛下）御成婚の御儀を宮中賢所でお仕えした後、

帰郷し戦災復興に邁進。

やがて昭和 24 年に本殿が再建出来、父はかつて志した画業を原点に、赤間神宮戦災復興絵図を描いて、御祭神安徳天皇に因む龍宮造りの水天門から社殿まで、大洋漁業の中部利三郎翁御支援のもとに昭和 40 年完成。

大連神社の御神体は先ず小祠を建立して宮崎宮からお遷し申し上げ、伊勢神宮の御遷宮に依る撤下古殿舎 1 棟を賜はって整備され、昭和 55 年春、貝島邸内の日の本神社を移築し芽出度く竣工いたしました。

大連神社



大連神社本殿（赤間神宮境内の北東側に鎮座）

撮影日：2013 年 12 月 7 日

撮影者：菅野智博

大連神社調査記

大野絢也

本稿は、2013年12月5日～7日に本会（以下、記憶研）の有志によって実施された、山口県下関市にある大連神社と併設の大連神社記念資料館の所蔵史資料調査・整理及び口述調査の成果報告である⁽¹⁾。まず調査の経緯について説明した上で大連神社の沿革を概観し、同神社が併設する資料館に所蔵されている諸史資料の価値に関する考察を行う。本号掲載の「大連の記」（赤間神宮水野直房名誉宮司の回想録）及び「大連神社記念資料館所蔵文献目録」も併せて参照されたい。

1 調査の経緯

大連神社での調査に至った経緯を述べよう。2013年8月初旬に大連会事務局（現在は閉鎖）を訪問した際、事務局長の岡町和美子氏から大連の学校や企業・団体の関連史資料を収集している場として、赤間神宮境内の大連神社⁽²⁾とその宮司である水野直房氏を紹介いただいたことが端緒である。そして同年10月下旬、記憶研メンバー3名で大連神社を訪問・見学し、今回紹介する一連の史資料群を発見するに至った。さらに史資料の調査・整理作業を行いたい旨を打診したところ、水野直房氏よりご快諾いただき、今回の調査が実現した。

2 大連神社の沿革

大連神社は、1907年10月に旧関東州大連市に建立された⁽³⁾。その後、神社を大連の氏神（総鎮守）とする目的のために、祭神が天照大神、大国主大神、靖国神とされた⁽⁴⁾。そして、1917年に初代宮司松山理三氏の義弟である水野久直氏（水野直房氏の父）が大連神社2代目の社司となった。さらに、1933年には満鉄や市民等からの寄付により社殿建替・拡張を行った。戦時中も水野久直氏の下で継続管理され、在大連日本人の冠婚葬祭などの儀礼に深く関わり続けた。大連神社は大連の発展とともに在大連日本人のなかで、その役割を大きくしていったのである⁽⁵⁾。

日本敗戦後、大連神社の立場も大きく変容した。大連へのソ連軍進駐直後、市内ではソ連軍兵士の暴力事件が多発し、彼らが大連神社へ侵入する事態も発生したが、大連神社とその関係者が直接破壊・暴行などの行為を受けることはなかった。駐大連ソ連軍司令部の将校を大連神社へ招待し雅楽・舞楽を披露するなどの交流もあったという⁽⁶⁾。そして1947年3月、水野久直氏は家族とともに大連神社の神体を携えながら最後の在大連日本人の一団に加わって日本へ引揚げ

た⁽⁷⁾。

引揚げ後、水野久直氏は戦災で被害を受けた山口県下関市の赤間神宮復興にあたり、戦後の資金・資材不足の中、1949年4月に赤間神宮は社殿などの再建を行った。その後、1953年10月には赤間神宮境内に大連神社の小祠を設け、遷座祭を行って大連から正式に下関へ移転した⁽⁸⁾。

時を経て近年には大連にあった学校の同窓会が次々と解散したことに伴い、その関連史資料を大連神社へ寄贈したいという要望が高まったため、創立100周年式年大祭(2007年10月)の記念事業として大連神社記念資料館を開設したのである⁽⁹⁾。



大連神社記念資料館入口
 撮影日：2013年12月5日
 撮影者：大野絢也

3 所蔵史資料の価値

「大連神社記念資料館所蔵文献目録」からわかるように、同資料館に所蔵されている史資料は、①大連神社関係史資料、②各種同窓会関係資料(最も多い)、③書籍・回想録、④その他(会社や同窓会以外の帰国邦人団体)関連資料の4つに大きく分類することができる。このことから大連神社記念資料館所蔵史資料の特徴は、大連神社自身に関する史資料にとどまらず、大連に関する学校・企業などの同窓会関連史資料が蓄積された点にある。その内訳は、各会の会報会誌・会員名簿、大連出身者が出版した回想録など多岐にわたる。特に私家版回想録は入手が非常に困難なため、戦後大連に関する文献が1箇所を集積されていることが当資料館の大きな意義として挙げられる。

このように史資料が集積された背景として、戦前から戦後を通じて大連神社が大連出身日本人の人的ネットワークの結節点の1つであったことが大きい。そして、その中心として大きな役割を果たしたのが水野久直・直房両氏であった。大連神社宮司とその氏子である在大連日本人のネットワークは、引揚げ後も維持された。またこのような史資料群は、戦後結成された各会の沿革や活動内容をみる上でも貴重である。これら各会の活動は戦後間もない時期から開始され、日中国交正常化など様々な影響を受けながら、現在の日中間にも人的交流により一定の影響を与え続けており、戦後の日中関係

史を検討する上でも意義がある。



展示ケース内にある書籍

撮影日：2013年10月25日

撮影者：大野絢也

その他特筆すべき点として、当資料館に各同窓会の会旗・写真なども多数所蔵されていることが挙げられる。これは近年いくつかの会が解散する際に、会旗を処分できないという理由により、大連神社へ「奉納」する形をとって当資料館に保管された経緯を持つ。このような「奉納」という手段によって多種多様な形態の史資料が蓄積されてきた点も、当資料館所蔵史資料の特徴である。これら「モノ資料」の整理・活用にあたっては、大連関係者へのインタビューと突き合わせ、史資料のさらなる精査が必要となるであろう。

4 結びに代えて

最後に、調査にあたって様々な面にわたり厚いご支援をいただいた大連神社の関係者のみなさんにこの場を借りて感謝

する。とりわけ懇切丁寧な応対を賜った水野直房氏には衷心の謝意を示したい。

(1) 本稿は、大野絢也・菅野智博・湯川真樹江・佐藤仁史・林志宏「下関大連神社所蔵文献資料概述」(『国史研究通説』第6期、2014年)をもとに修正・加筆したものである。当資料館は「大連神社記念資料室」とも称され、ここでは「大連神社記念資料館」に統一する。

(2) 山口県下関市阿弥陀寺町4-1(赤間神宮)。
<http://www.tiki.ne.jp/~akama-jingu/>

(3) 水野直房『赤間神宮名誉宮司水野久直大人十年祭誌』私家版、2004年、33頁。

(4) 祭神に靖国神が加えられたのは、日露戦争後間もない時期であったこともあり、満洲での戦死者をも祀るという意味があったという。「第2回水野直房氏インタビュー記録」2013年12月7日、未定稿。

(5) 水野淳正「大連神社の昔と今」『財団法人満鉄会関西地区懇親会講演内容』私家版、2006年。

(6) 「第2回水野直房氏インタビュー記録」。

(7) 水野氏一家は病院船・高砂丸に乗船し引揚げた。1947年3月29日出港の引揚船と推測される。富永孝子『大連・空白の六百日一戦後、そこで何が起こったか』新評論、1986年、507頁。

(8) 水野昭長『大連神社の創建と内地奉変遷について』私家版、2008年。

(9) 水野前掲「大連神社の昔と今」。

大連神社記念資料館所蔵文献目録

「満洲の記憶」研究会編集委員会編

凡例

本目録は、大連神社に併設された大連神社記念資料館の所蔵史資料の書誌情報を収録したものである。本号掲載の「大連神社調査記」でも述べたとおり、2013年12月5日～7日にかけて「満洲の記憶」研究会の大野絢也、菅野智博、佐藤仁史、湯川真樹江、林志宏によって、所蔵史資料調査・整理、書誌情報の撮影を行った。その後、飯倉江里衣、大野絢也、菅野智博、馬海龍、湯川真樹江によって目録化を行った。今回はそのなかの文献史資料を中心に公開するものである。なお、書簡、写真、音声映像テープ・会旗などの「モノ資料」については、今後目録化の検討を進めたい。

大連神社記念資料館の史資料は資料館室内の2箇所に分かれて保管されている。これは、①室内の北西側にある展示用ガラスケース内の棚（以下、展示棚と略称）と、②室内南西側に設置された引出し棚（以下、資料棚と称す）であり、①は書籍・回想録など、②は同窓会関係の会報・冊子などを中心に保管している（室内の位置関係は大連神社記念資料館概略

図を参照）。

史資料形態の分類項目は、書籍・会報・冊子・名簿・地図の5項目とした。表題、著者・编者、出版・発行、出版年の各項目は、文献内に記載されているものをそのまま掲載している。

各史資料の掲載は展示棚、資料棚ともに出版年の時系列順としている。なお、重複するものについては省略する。

（文責：大野絢也）



大連神社記念資料館展示風景

撮影日：2013年10月25日

撮影者：大野絢也

目録

展示棚 (ガラスケース)				
形態	表題	著者・编者	出版・発行	出版年
書籍	屍山血河	コステン コ(樋口石城 訳)	海文社	1912
書籍	満洲土産一写真帖	守屋秀也	満洲日日新聞社	1913
書籍	満鮮の行楽	田山録彌	大阪屋號書店	1924
書籍	満洲写真帖	大西守一	東京堂	1925
書籍	草に祈る	櫻井忠愷	朝日新聞社	1927
書籍	旅順戦蹟秘話一附・営口の思ひ出	上田恭輔	大阪屋號書店	1928
書籍	現代日本文学全集一第四十九編一戦 争文学集	櫻井忠愷、水 野廣徳	改造社版	1929
書籍	最新満洲写真帖	山崎均一郎	文英堂書店	1929
書籍	佐渡丸遭難記念誌	貝瀬謹吾	貝瀬謹吾	1929
書籍	日本地理大系一別巻満洲及南洋篇	山本三生	改造社	1930
書籍	二〇三高地占領実戦記	田村友三郎	教育研究会	1931
書籍	満洲建国十周年記念版一満洲帝国分 省地図並地名総攬	佐々木恭一	国際地学協会	1932
書籍	漫遊綺談一満洲は微笑む	眞鍋儀十	中和書院	1932
書籍	昭和八年関東庁要覧		関東長官官房調査課	1933
書籍	集成概観満洲国地誌	長谷川興三 治	東京修文館、大阪修 文館	1933
書籍	第一回・第二回、旅順閉塞隊秘話	栗田富太郎	東京水交社	1933
書籍	第三回・旅順閉塞隊秘話	匠瑛胤次	東京水交社	1934
書籍	参戦二十将星 回顧卅年 日露大戦を 語る		東京日日新聞社、大 阪毎日新聞社	1935
書籍	満洲読本一昭和五年版		財団法人東亜経済調 査局	1935
書籍	記念写真帖	竹村二郎	満鉄学務課図書館係	1937

書籍	南満洲鉄道株式会社三十年略史	松本豊三	南満洲鉄道株式会社	1937
書籍	星・海・花	喜田龍治郎	満洲教科用図書配給所	1939
書籍	旅順の戦蹟	筒井磯雄	山縣文英堂	1939
書籍	旅順戦抄	池田信治	財団法人関東州戦蹟保存会	1940
書籍	舞楽	水野久直	大連神社事務所	1940
書籍	二十歳のエチュード	原口統三	角川文庫	1952
書籍	満州の終焉	高碓達之介	実業之日本社	1953
書籍	侍従とパイプ	入江相政	毎日新聞社	1957
書籍	流轉の王妃—満洲宮廷の悲劇	愛新覚羅浩	文芸春秋新社	1959
書籍	天皇さまの還暦	入江相政	朝日新聞社	1962
書籍	自侍	澄田助三郎	斉藤印刷株式会社	1963
書籍	満州開発四十年史（上・下巻）	満史会	満州開発四十年史刊行会	1964
書籍	満州開発四十年史（補巻）	満史会	満州開発四十年史刊行会	1965
書籍	関東軍	島田俊彦	中央公論社	1965
書籍	明治天皇御尊像奉遷記	水野久直	赤間神宮事務所	1966
書籍	関東軍始末記	榎本捨三	原書房	1967
書籍	その日、関東軍は一元関東軍参謀作戦班長の証言	草地貞吾	宮川書房	1967
書籍	秘録—北満永久要塞関東軍の最期	岡崎哲夫	秋田書店	1967
書籍	関東軍壊滅す—ソ連極東軍の戦略秘録—	マリノフスキー（石黒寛訳）	徳間書店	1968
書籍	魂は消えじ—恩師頭山満先生の面影—	水野久直	赤間神宮	1969
書籍	再見・大連	松下満連子	謙光社	1969
書籍	満洲の風景	石田吟松	木耳社	1969
書籍	間諜X二十八号	福村富吉	岩田印刷所	1969
書籍	満洲国軍	満洲国軍刊	蘭星会	1970

		行委員会		
書籍	再見大連—さよなら大連	松下満蓮子	謙光社	1970
書籍	アカシヤの大連	清岡貞行	講談社	1970
書籍	ふるさと大連	木村遼次	謙光社	1970
書籍	殉国の教育者—三島精神の先駆—	浅野晃	日本教文社	1971
書籍	満洲慕情—全満洲写真集	満史会	謙光社	1971
書籍	大連物語	木村遼次	謙光社	1972
書籍	バルチック艦隊の壊滅	ノビコフ・プ リボイ(上脇 進訳)	原書房	1972
書籍	旅順口	ステパーノ フ(袋一平・ 正訳)	新時代社	1973
書籍	“柳緑花紅”—大連一中創立—第五 十五周年記念誌		大連一中校友会	1973
書籍	満洲小学唱歌集	南満洲教科 書編集部	謙光社	1973
書籍	満州一九四五年	玉井秀夫	新人物往来社	1973
書籍	満鉄最後の総裁—山崎元幹		財団法人満鉄会	1973
書籍	ソ連占領下の大連	高森ミツノ	大東塾出版部	1974
書籍	回想の旅順・大連—資料写真集	寺村謙一	大連市史刊行会	1974
書籍	旅順・松山の歌	レンガー ト(才神時雄 訳)	新時代社	1974
書籍	写真集—満蒙開拓青少年義勇軍	全国拓友協 議会	家の光協会	1975
書籍	写真集 「満洲」 遠い日の思い出	一色達夫 宇 野木敏	ベストセラーズ	1975
書籍	海の瞳—原口統三を求めて	清水卓行	文春文庫	1975
書籍	馬賊戦記(上・下)	朽木寛三	番町書房	1975
書籍	満鉄特急あじあ号	市原善積	原書房	1976
書籍	おとうさんの絵本—大連のうた	川崎忠昭	すばる書房	1978

書籍	赤間神宮	水野久直	赤間神宮社務所	1978
書籍	日本植民地史 2—満州日露戦争から 建国・滅亡まで	松井孝也	毎日新聞社	1978
書籍	不良少女とよばれて	原笙子	筑摩書房	1978
書籍	われらの福田老	福田熊治郎	大和染料社族会	1979
書籍	はちきん—堀川晶仙自伝—	堀川晶仙	八坂書房	1979
書籍	写真集—さらば大連・旅順	北小路健	国書刊行会	1979
書籍	望郷—遙かなる母校—		岡山県あかしや会事務 務局	1979
書籍	満洲の思い出集	齊藤善夫	正隆同人会	1979
書籍	槿花一朝の夢(—満鉄社員の手記) 中国の鉄道の現状	植村静栄	植村静栄刊行後援会	1979
書籍	満鉄王国—興亡の四十年	江上照彦	サンケイ出版	1980
書籍	昭和四・五会の思い出	蒔田広良	南満工專昭四・五会	1980
書籍	温石—大連の落日—	池内はじめ		1980
書籍	日本植民地史 4—続満州	牧野喜久男	毎日新聞社	1980
書籍	血風二百三高地	船坂弘	叢文社	1980
書籍	飯田鐵太郎写真集—満州旅情—一九三 八年夏	森繁久彌	サンブライツ出版	1981
書籍	1981—大連	北小路健	国書刊行会	1981
書籍	もうひとつの満洲	澤地久枝	文藝春秋	1982
書籍	昔日の満洲	飯坂太郎	国書刊行会	1982
書籍	満鉄留魂碑建立報告書		財団法人満鉄会	1982
書籍	決定版写真集—望郷満洲	佐藤今朝夫	国書刊行会	1983
書籍	日中交流の十字路口—旧満州はいま	朝日新聞中 国・東北取材 班	朝日新聞社	1983
書籍	大連の遠き日日—青泥窪物語—	片岡三保子	北書房	1983
書籍	大連小景集	清岡卓行	講談社	1983
書籍	明治天皇御尊像奉遷記	水野久直	赤間神宮社務所	1983
書籍	統一大連ふたたび(終戦後の大連・ 苦斗の生活記録)	吉岡勝一	正友会	1984

書籍	旅大同窓会歌集	旅順関係校	第 23 回福岡地区旅 大合同同窓会	1984
書籍	されど、わが「満洲」	文藝春秋	文藝春秋	1984
書籍	それぞれの花	安富節子	日本随筆家協会	1984
書籍	卡子—出口なき大地	遠藤誉	読売新聞社	1984
書籍	実録大連回想—附満洲引揚記	鈴木正次	河出書房新社	1985
書籍	赤間神社—源平合戦図録	水野久直	赤間神宮社務所	1985
書籍	満洲昨日今日	松本栄一 香内三郎 水上勉ほか	新潮社	1985
書籍	満洲は知らない	吉田知子	新潮社	1985
書籍	満洲脱出	武田英克	中央公論社	1985
会報	たいしょう (8, 21, 27 号)		大連大正小学校同窓 会	1985, 1999, 2006
書籍	旧満洲幻の国の子どもたち—歴史を 生きる残留孤児	菅原幸助	有斐閣	1986
書籍	満鉄特急あじあ物語	林青梧	講談社	1986
書籍	満洲慟哭	友清高志	講談社	1987
書籍	満洲引揚・戦後自分史を語る	満拓会	あずさ書店	1987
書籍	満洲そして私の無言の旅	鈴木政子	立風書房	1987
書籍	懐古詩歌帖		赤間神宮社務所	1987
書籍	大連神社八十年史		大連神社八十年祭奉 賛会	1987
書籍	大連一九八七年・夏	PHP 研究所	PHP 研究所	1987
書籍	大連空白の六百日	富永孝子	新評論	1987
書籍	続・大連の遠き日日—ダルニイの終 焉—	片岡三保子		1987
書籍	李香蘭—私の半生	山口淑子、藤 原作弥	新潮社	1987
書籍	ぼくの大連	早川孜	新潮社	1988
書籍	傑作小説集さらば大連	石沢英太郎	光文社	1988
書籍	遺言なき自決—大連最後の日本人市	富永孝子	新評論	1988

	長・別宮秀夫			
書籍	学校がなくなった日	草壁焰太	市井社	1988
書籍	満洲幻想	長谷川傳次郎	東京経済	1988
書籍	写真集旧満洲	池宮城晃	池宮商会	1988
書籍	ノモンハン草原の日ソ戦（上・下）	アルヴィン・D・クックス（岩崎俊夫訳）	朝日新聞社	1989
書籍	満洲メモリー・マップ	小宮清	筑摩書房	1990
書籍	中国と東アジア（26, 30-32号）		社団法人国際善隣協会・中国問題研究所	1991
書籍	大地の子（上・中・下）	山崎豊子	文藝春秋	1991
書籍	漂泊の記	小口幽香	あざみ書房	1992
書籍	大連ダンスホールの夜	松原一枝	荒地出版社	1994
書籍	昔を今に	東影英郎	大連一中みどり会（23回生）	1995
書籍	文集 大連日僑学校		大連日僑学校同窓会 文集編集委員会	1996
書籍	図説満洲都市物語—ハルビン・大連・瀋陽・長春	西澤泰彦	河出書房新社	1996
書籍	図説満洲帝国	太平洋戦争研究会	河出書房新社	1996
書籍	満洲チャーズの悲劇—飢餓地獄を生き延びた家族の記録	浜朝子・福渡千代	明石書店	1996
書籍	南満洲の近代建築—東三省の近代建築	西田貴志		1996
書籍	満洲帝国の興亡	椎野八束	新人物往来社	1997
書籍	美麗の大連		遼寧人民出版社	1997
書籍	大連神社史—ある海外神社の社会史	新田光子	おうふう	1997
書籍	満洲鉄道まぼろし旅行	川村湊	ネスコ、文藝春秋	1998
書籍	図説大連都市物語	西澤泰彦	河出書房新社	1999

書籍	「調査と資料」植民地都市の社交ダンス (資料集・92号)	永井良和	関西大学経済・政治研究所	1999
冊子	神道文化 (11号)		財団法人神道文化会	1999
書籍	大連のいしづえ	甲斐正人	20世紀大連会議	1999
書籍	憶いは尽きず満州星の流れ	国松弘		1999
書籍	図説日露戦争	平塚柁緒	河出書房新社	1999
書籍	NOMONHAN Japan Against Russia, 1939	Alvin D. Coox	Stanford University Press	1999
書籍	大連百年変わりゆく都市・再会の故郷	安藤徹	有限会社アンディ・フォト・オフィス	2000
書籍	図説満鉄「満洲」の巨人	西澤泰彦	河出書房新社	2000
書籍	佳雁—半世紀をこえて—追悼は万里へはばたく	池田精孝、五味誠	佳木斯医科大学同窓会	2001
書籍	満州国の遺産—歪められた日本近代史の精神	黄文雄	光文社	2001
書籍	満洲 (現中国東北) 附旅順戦蹟			
書籍	「満州国」見聞記リットン調査団同行記	ハインリッヒ・シュネー (金森誠也訳)	講談社	2002
書籍	二〇〇一年 (平成十三年) 彌榮会友好訪中追悼の旅		彌榮会	2002
書籍	満州の遺産	倉本和子	文芸社	2003
書籍	満州唱歌よ、もう一度	喜多由浩	産経新聞社	2003
書籍	満州裏史—甘粕正彦と岸信介が背負ったもの	太田尚樹	講談社	2005
書籍	夢の街・不思議の国—少年の日の大連	牧野彰夫	MBC 2 1	2005
書籍	昼下がりの大連	菊川有臣		2006
書籍	幻の大連	松原一枝	新潮社	2008
書籍	評伝川島芳子—男装のエトランゼ	寺尾沙穂	文藝春秋	2008
書籍	水甕—ふくおか		水甕福岡支社	2008

書籍	大連小学校沿革史総覧	秦源治	20世紀大連資料室	2012
書籍	関東州の中等学校各校沿革史総覧	秦源治	20世紀大連資料室	2012
書籍	大連・ロマン (5) 一租借40年の栄光一附 (大学・高専の部)	青柳龍平	20世紀大連資料室	2013
書籍	敗戦 満州追想	岩見隆夫	原書房	2013
書籍	飛躍的文化の都大連—十六勝十六枚組 VIEW OF DAIREN			
書籍	開校十周年記念写真帖 (昭和五年)		大連春日尋常小学校	
書籍	白牡丹			
書籍	八十七年の歩み	水野久直	赤間神宮	

資料棚				
形態	表題	著者・編者	出版・発行	出版年
地図	関東州全図			1936
冊子	弓の道			1937
書籍	神明歌集	園山民平	大連神明高等女学校	1938
冊子	創立25周年記念号		大連神明高等女学校	1939
書籍	我等の郷土	白川今朝晴	在満日本教育会教科書編集部	1940
冊子	SHINMEI (3)		大連神明高女近畿同窓会	1951
冊子	消息録—第29回生		大連神明高等女学校同窓会	1953
会報	満洲美会会報 (2~28号, 特別号)		満洲美会	1954, 1956, 1959 1964, 1973, 1974 1979, 1982, 1985 ~2004
冊子	大連神明高女創立50周年記念祝賀		大連神明高女同窓会 満洲美会	1964
冊子	大和撫子 創立五十周年記念誌		満洲美会	1964
冊子	大連神明高女総会資料		大連神明高女満洲美会	1969, 1980, 1990 ~2004

書籍	われらが心のふるさと大連一中— 大連一中創立 50 周年記念誌		大連一中校友会	1970
冊子	大連神明高女創立 60 周年記念祝賀		大連神明高女満洲美 会	1974
冊子	大連神社由来記—内地奉遷と造営	水野久直		1974
冊子	はるかなる興城 陸軍看護婦生徒の 手記	興城みどり 会編	興城陸看生の会	1975
会報	羽衣—大連羽衣高女 50 周年同窓会 記念特集号 (13 号)		大連羽衣高等女学校 同窓会	1977
書籍	写真集—望郷満洲	北小路健	国書刊行会	1978
冊子	祝官立大連神明高等女学校創立 65 周年記念 (付・出席者名簿)		満洲美会関西支部	1979
書籍	曠野に生きた若者たち	佐藤眞美	満鉄若葉会 (満鉄育 成学校同窓会)	1982
冊子	大連神明高等女学校創立 70 周年記 念大会		満洲美会	1984
冊子	大連神明高等女学校 創立 70 周年 記念誌 合歓の花	檜原ゆたか	満洲美会	1984
名簿	満洲美会名簿		大連神明高等女学校 同窓会	1987, 1994, 2002
冊子	大連霞会全国大会プログラム (第 11 回～第 18 回)		大連霞 (第 8) 小学 校同窓会	1987, 1989, 1991 1993, 1995, 1997 1999, 2001
冊子	大連神明高等女学校創立 80 周年祝 賀会		満洲美会	1994
冊子	大連神明高等女学校創立 80 周年記 念誌 平成 6 年秋	馬淵澄子	満洲美会	1994
会報	大連会会報 (35, 41, 61 号)		大連会	1995, 1997, 2007
冊子	ひろば北九州 (134 号)		北九州都市協会	1996
会報	あかしや (34 号)		大連中学校第 8 回同 窓会	1996
会報	槐花 (3～4 号)	津田武洋	北九州大連会	1996, 1997

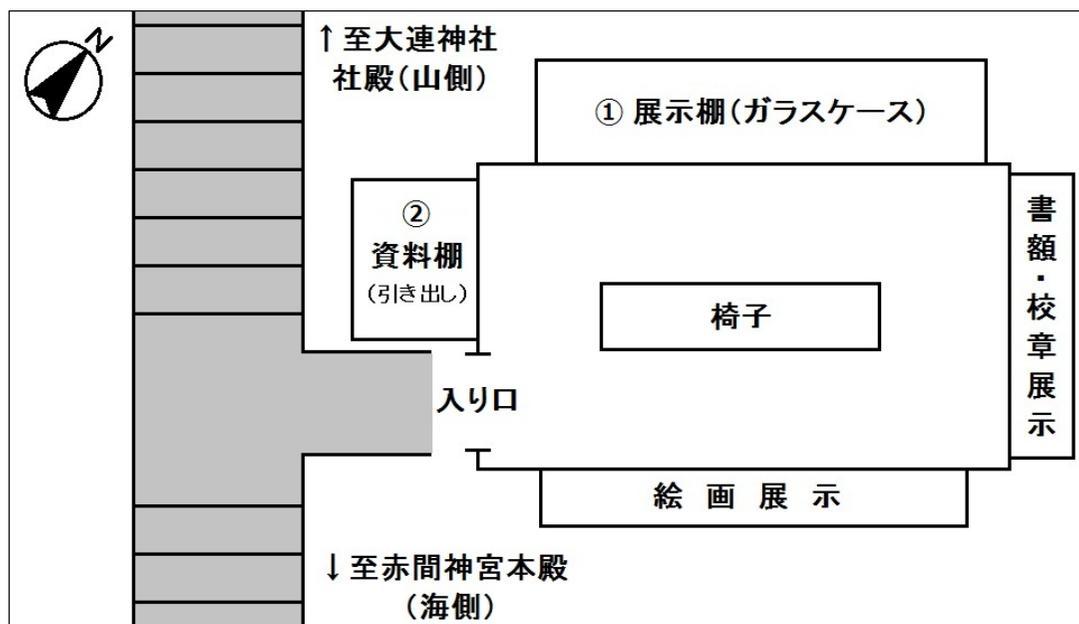
名簿	北九州大連会会員名簿		北九州大連会	1997
冊子	第36回旅大合同同窓会総会案内			1997
冊子	官幣大社『関東神宮』	佐藤益躬		1997
冊子	PENNA PLAZZA (7号)			1997
地図	大連市霞町現況図	辻武治		1997
名簿	大連南山麓小学校同窓会会員名簿 (9)		大連南山麓小学校同 窓会	1997
会報	南山たより		南山会	1997
会報	大連春日小学校同窓会会報 (47, 48 号)		大連春日 (第5) 小 学校同窓会	1997
会報	大中だより (15号)	古川喜弘	大連中学校同窓会	1997
会報	充丘会会報 (49号)		大連二中第19回同 窓会	1997
会報	大連日本商工クラブ会報 (8号)		大連日本商工クラブ	1997
会報	大連神社社報 (34, 55号)		大連神社	1997, 2007
冊子	大連神明高等女学校創立85周年祝 賀会		満洲美会	1999
書籍	思い出の紅葉ヶ丘		大連商業学校同窓会	1999
書籍	満洲国の幻影—1931-1936 (幻のユ ダヤ人自治区計画)	西井一夫	毎日新聞社	1999
冊子	研究ノート②—海外神社について の若干の試論	水野昭長		1999
地図	霞町—たうんまっぷ大連 (3)	辻武治		1999
地図	大正通—たうんまっぷ大連 (4)	辻武治		1999
地図	大正通以西—たうんまっぷ大連 (5)	辻武治		1999
名簿	満鉄若葉会会員名簿		満鉄若葉会名簿作成 委員会	1999
名簿	大連霞小学校同窓会名簿	池田和幸		1999
名簿	90周年記念誌同窓会名簿 (9)		大連常盤 (第3) 小 学校同窓会	2001
名簿	2001年同窓会名簿		大連商業学校同窓会	2001
冊子	開校70周年記念大連霞小学校同窓		大連霞 (第8) 小学	2002

	会		校同窓会	
冊子	大連神明高等女学校創立 90 周年祝賀会		満洲美会	2004
冊子	大連神明高等女学校創立 90 周年記念〔大和撫子〕最終号 平成 16 年		満洲美会	2004
会報	旅大合同同窓会会報 (7, 8, 18, 19, 20 最終号)		旅大合同同窓会	2006~2008 (7, 8 号は出版年不明)
書籍	父と娘の満州—満鉄理事犬塚信太郎の生涯	小川薫	新風舎	2006
書籍	財団法人—満鉄会六十年の歩み		満鉄会	2006
冊子	大連神社の昔と今	水野淳正 (講師)		2006
冊子	遙かなる常盤	岡田豊憲	大連常盤会	2006
冊子	大正広場一九・中会の回想	有木秀次	大連大正小学校同窓会九州・中国地域同窓会	2006
冊子	第 20 回大連大正小学校九州・中国地域同窓会		大連大正小学校同窓会九州・中国地域同窓会	2006
会報	The Great Connection (12, 13, 15 号)	甲斐正人	20 世紀大連会議	2006, 2007
名簿	大連船梁社友会会員名簿			2007
冊子	大連を予見した漱石	甲斐正人		2007
冊子	大連商業と歩みし道			2007
会報	満鉄若葉会会報 (164 号)	岡田満夫	満鉄若葉会 (満鉄育成学校同窓会)	2007
会報	満鉄会報 (224, 225, 228 号)		満鉄会	2007, 2008
会報	連機会会報 (69, 71 号)		大連機関区会	2007, 2008
冊子	大連連鎖商店街ものがたり	秦源治	20 世紀大連会議	2008
冊子	夢満載の大連航路—あ・ら・か・る・と	秦源治	20 世紀大連会議	2008

冊子	夢満載の大連航路—あ・ら・か・ら・と	秦源治	20世紀大連資料室	2008
冊子	アカシアの記憶	大連神社全国氏子崇敬会	読売新聞	2008
冊子	第47回福岡旅大合同同窓会総会			2008
冊子	満鉄特急『あじあ』	秦源治	20世紀大連資料室	2009
冊子	わが国—球界をリードした大連野球界	秦源治	20世紀大連資料室	2009
会報	大商（特集号）	香山磐根	大連商業学校同窓会	2010
冊子	大連小学校沿革史—総覧	秦源治	20世紀大連資料室	2012
冊子	関東州の中等学校各校沿革史総覧	秦源治	20世紀大連資料室	2012
冊子	大連の公園—水師営物語	秦源治・谷口正子	20世紀大連資料室	2013
冊子	ふるさと大連の思い出～大連神社水野宮司に聴く～			2013
冊子	租借40年の栄光—附(大学・高専の部)	青柳龍平	20世紀大連資料室	2013
書籍	海外神社跡地の景観変容—さまざまな現在—神奈川大学評論ブックレット(37号)	中島三千男	御茶の水書房	2013
冊子	神明歌集思い出の歌	石川方子	満洲美会	
冊子	占領下の大連—回想二編	(商業)村瀬信雄		
冊子	少年の日の大連—感想文集	牧野彰夫		
冊子	遙かなる「旅順」への架け橋	川畑文憲	旅順児童教育後援会	
冊子	居住地探訪			
冊子	平成17年台風災害復旧の記録			
冊子	大連訪問記	水野直房		
冊子	大連神社の創建と内地奉変遷について	水野昭長		
冊子	大連神社の沿革(概要)	水野昭長		

冊子	大連神社新社殿御造営御寄進報告書		大連神社事務局	
冊子	奉賛大連神社記念大祭 (3)		20 世紀大連会議	
冊子	漁火ひとつ	秋野なほ子		

大連神社記念資料館概略図



寄贈資料目録

本目録には、2013年7月31日から2014年7月31日までに記憶研に寄贈していただいた資料を掲載しました。他にも貸与していただいた資料や写真、ハガキ、書簡も多くありますが、紙幅の関係上ここでは省略させていただきます。記憶研では皆様から頂いた資料をより多くの方々に利用しやすいように整理・保管し、順

次公開していく予定です。

記憶研に貴重な資料を寄贈・貸与していただいた方々には、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。また、今後とも継続して資料の収集を行っていく所存ですので、ご理解ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

(50音順)

天野博之氏（満鉄会）

- ・満鉄会『満鉄会会報』1号～244号
- ・満鉄会『財団法人 満鉄会六十年の歩み』2006年11月
- ・満鉄会『財団法人 満鉄会小史』1985年11月
- ・有馬勝良『満鉄資料を求めて—有馬勝良遺稿集』龍溪書舎、1986年
- ・雑誌『みんなみ』1号～32号目録（33号附録のコピー）
- ・ほか1冊

池田貞恵氏（日本長春会）

- ・池田貞恵『たゆたうかなた』創元社、三省堂書店、2002年

池田武久氏（日本長春会）

- ・池田武久『国際善隣協会ツアー初参加』2013年
- ・ほか地図1枚

石川武郎氏（安東会）

- ・馬場涼子『満洲写真アルバム』

磯部筍子氏（日本長春会）

- ・日本長春会『長春会会報』1号～52号
- ・日本長春会終戦記録文集企画委員会編『新京・長春の記憶—子や孫に伝えよう戦争の悲惨さを』日本長春会、2009年
- ・ほか地図2枚

伊藤禮子氏（天水会）

- ・天水会『天水会会報』2010年・2012年版、2010年～2012年

茨城治人氏（蘭星会）

- ・同徳台七期生会『同徳台第七期生史』1990年

上田英代氏（蘭星会）

- ・上田英代『ハルピン挽歌』恵雅堂出版、2010年

梅澤順子氏（安東会）

- ・梅澤順子『戦争体験談』私家版、刊行
年不明

岡田和裕氏（安東会）

- ・岡田和裕『満州辺境紀行』光人社NF文
庫、2014年

岡町和美子氏（大連会）

- ・大連会『大連会会報』、1号～74号

甲斐正人氏（20世紀大連会議）

- ・甲斐正人『大連市政府指定歴史的文化
財50選建築物』20世紀大連会議、2009
年
- ・秦源治『わが国球界をリードした大連
野球界』20世紀大連会議、2009年
- ・甲斐正人『(The) Great Connection』1
号～21号、20世紀大連会議、2000年～
2010年
- ・垣間庄・野越真昭『CANO式三代家族史
ノート』1・2巻、20世紀大連会議、2009
年
- ・秦源治・甲斐正人『大連・ロマン』3
号～6号、10号①～③、20世紀大連資
料室、2012年～2013年
- ・ほか10冊

小坂宣雄氏（錦州会）

- ・錦州会『錦州会報』23、25、26、28～
30、32、35、37号

- ・錦州会『最後の満州—錦州終戦前後』
1979年

坂本俊雄氏（日本長春会）

- ・坂本俊雄『満州、我が心の故郷—ソ連
軍侵入後の悲劇』文芸社、2012年

澤田武彦氏（奉天会）

- ・奉天会『DVD第57回奉天会総会記念講
演（附録付き）』奉天会、2009年
- ・奉天会『DVD懐かしき奉天 今昔』奉天
会、2012年
- ・江口清『奉天会のあゆみ—草創より記
念植樹まで』奉天会、2003年

西田純明氏（延辺関係者）

- ・外務省『警善帖』1937年

水野直房氏（赤間神宮名誉宮司）

- ・水野直房『み教えをいただいて』ぎ・
ぼんちわーく、2009年
- ・水野久直『水野久直大人十年祭誌』私
家版、刊行年不明

森利彦氏（蘭星会）

- ・森利彦『自分史「五分の魂」』私家版、
刊行年不明

柳沢隆行氏（安東会）

- ・安東会『ありなれ』1号～56号

（文責：湯川真樹江）

2013年度（2013年7月～2014年7月）

「満洲の記憶」研究会活動記録

- 2013年7月30日 第1回定例会（於一橋大学）参加者：飯倉江里衣、大野絢也、菅野智博、佐藤仁史、馬海龍、湯川真樹江
- 2013年8月2日 大連会事務局訪問 参加者：大野、菅野、馬
- 2013年10月1日 第2回定例会（於一橋大学）参加者：飯倉、大野、菅野、佐藤（仁）、馬、湯川
- 2013年10月18日 日本長春会磯部荀子氏訪問 参加者：飯倉、菅野、馬、湯川
- 2013年10月25日 大連神社、中山神社訪問 参加者：大野、菅野、佐藤（仁）
- 2013年11月3日 「満洲の記憶」研究会主催一橋祭講演会『中国残留邦人——私たちは歴史の中に生きている』講師：西田瑠美子氏（中国残留邦人）、石井小夜子氏（石井法律事務所弁護士）
- 2013年11月3日 第3回定例会（於一橋大学）参加者：飯倉、大野、菅野、馬、湯川
- 2013年11月4日 天水会訪問 参加者：大野
- 2013年11月5日 安東会総会 参加者：大野、菅野、湯川
- 2013年11月12日 第4回定例会（於一橋大学）参加者：飯倉、大野、菅野、佐藤（仁）、馬、湯川
- 2013年11月15日 満洲国陸軍軍官学校出身者清泉信男氏インタビュー（第1回目）参加者：飯倉、菅野、湯川
- 2013年11月27日 磯部荀子氏インタビュー（第1回目）参加者：菅野、馬
- 2013年12月5～7日 大連神社資料整理、水野直房氏インタビュー（第1回目）参加者：大野、菅野、佐藤（仁）、湯川、林志宏
- 2013年12月7日 岡山ハルビン会関係者立岡洋子氏、立岡海人氏訪問 参加者：大野、菅野、佐藤（仁）、林
- 2013年12月8日 20世紀大連会議甲斐正人氏訪問 参加者：大野、菅野
- 2013年12月14日 日本長春会忘年会 参加者：菅野、佐藤（仁）、湯川、林
- 2013年12月17日 第5回定例会（於一橋大学）参加者：飯倉、大野、菅野、佐藤（仁）、佐藤量、馬、湯川、林
- 2013年12月18日 満鉄会情報センター天野博之氏訪問 参加者：大野、菅野、佐藤（仁）、林
- 2013年12月18日 国際善隣協会関係者高嶋正文氏インタビュー（第1回目）参加者：湯川
- 2013年12月20日 蘭星会訪問 参加者：飯倉、大野、菅野、佐藤（仁）、林

- 2013年12月23日 満洲国陸軍軍官学校出身者茨木治人氏インタビュー（第1回目） 参加者：飯倉
- 2013年12月27日 磯部荀子氏インタビュー（第2回目） 参加者：菅野、馬
- 2014年1月12日 大連関係者秦源治氏訪問 参加者：大野、菅野、佐藤（仁）
- 2014年1月12日 蘭星会新年会 参加者：飯倉、湯川
- 2014年1月14日 第6回定例会（於一橋大学） 参加者：飯倉、大野、菅野、佐藤（仁）、佐藤（量）、馬、湯川
- 2014年1月17日 磯部荀子氏インタビュー（第3回目） 参加者：菅野
- 2014年1月18日 大同学院二世の会新年会 参加者：菅野
- 2014年1月19日 海蘭会・満洲電業会関係者池田雅躬氏インタビュー（第1回目） 参加者：大野
- 2014年2月2日 池田雅躬氏インタビュー（第2回目） 参加者：大野
- 2014年2月11日 磯部荀子氏インタビュー（第4回目） 参加者：大野、菅野、湯川
- 2014年2月12日 大同学院関係者長戸紀次郎氏訪問 参加者：大野、菅野
- 2014年3月7日 池田雅躬氏インタビュー（第3回目） 参加者：大野
- 2014年3月10日 第7回定例会（於一橋大学） 参加者：大野、菅野、佐藤（仁）、佐藤（量）、馬、湯川
- 2014年4月16日 天野博之氏訪問 参加者：菅野、佐藤（仁）
- 2014年4月19日 池田雅躬氏インタビュー（第4回目） 参加者：大野
- 2014年4月26日 満洲国軍事部参謀司第4科出身者森利彦氏インタビュー（第1回目） 参加者：飯倉、湯川
- 2014年4月26日 池田雅躬氏インタビュー（第5回目） 参加者：大野
- 2014年5月11日 蘭星会第63回大慰霊祭 参加者：大野、飯倉、湯川
- 2014年5月14日 中国帰国者の会訪問 参加者：菅野、馬
- 2014年5月17日 中国残留邦人「三鷹憩いの家」訪問 参加者：菅野、馬
- 2014年5月19日 大同学院二世の会上田禮子氏訪問 参加者：菅野
- 2014年5月21日 中国残留邦人鈴木五三美氏訪問 参加者：尹国花、菅野、馬
- 2014年5月30日 鈴木五三美氏インタビュー（第1回目） 参加者：尹、馬
- 2014年6月4日 国際善隣協会関係者古海建一氏訪問 参加者：尹、菅野
- 2014年6月4日 天野博之氏訪問 参加者：菅野、佐藤（仁）
- 2014年6月7日 延辺関係者西田純明氏訪問 参加者：尹
- 2014年6月14日 第8回定例会（於一橋大学） 参加者：飯倉、尹、大野、菅野、佐藤（仁）
- 2014年6月15日 日本長春会総会 参加者：大野、菅野、佐藤（量）
- 2014年6月19日 秦源治氏インタビュー（第1回目） 参加者：大野、佐藤（仁）

- 2014年6月24日 鈴木五三美氏インタビュー（第2回目） 参加者：尹、菅野
- 2014年6月30日 上田禮子氏訪問 参加者：尹、菅野、林
- 2014年7月5日 「満洲の記憶」研究会主催ワークショップ「満洲国研究と史料」開催（於慶應義塾大学三田キャンパス） 報告者：林志宏氏（台湾中央研究院）、松重充浩氏（日本大学）、コメンテーター：塚瀬進氏（長野大学）、司会：佐藤（仁）
- 2014年7月15日 鈴木五三美氏インタビュー（第3回目） 参加者：尹、菅野
- 2014年7月18日 満鉄会懇親会 参加者：尹、菅野
- 2014年7月21日 西田純明氏インタビュー（第1回目） 参加者：尹、湯川
- 2014年7月23日 牡丹江関係者鈴木榮治氏訪問 参加者：尹、菅野
- 2014年7月28～29日 蘭星会主催懇親会 参加者：飯倉、大野
- （文責：菅野智博）

おしらせ

資料提供のおねがい

「満洲の記憶」研究会では、満洲に関する資料を収集しております。「寄贈資料目録」に示したように、これまでに書籍や会誌、写真、ハガキ、書簡など多数の資料を寄贈・貸与していただきました。これらの資料は満洲の記憶を継承する上で極めて貴重な資料です。

ご提供いただきました資料は「満洲の記憶」研究会が管理し、研究活動の目的において活用いたします。資料の公開方法は、資料目録を作成して本ニューズレターに掲載させるという形式を採ります

が、提供資料に含まれる個人情報等には深甚な配慮をいたします。

また、お手持ちの資料には、貴重なもの、思い出の品でお手元に置いておかれたいものなどもおありのことと思います。ご提供ではなくとも、複写・複製の作成等のご相談をさせていただければと考えておりますので、ぜひ情報をお寄せくださいますようお願いいたします。

カンパのお願い

「満洲の記憶」研究会では、この度皆様からのカンパを募る事といたしました。本研究会は若手研究者・大学院生が主体になっているため、これまで編集委員の寄付によって活動を続けてきました。しかし活動範囲が全国に拡がり、予想以上に多くの資料が集まったことにより、資料調査や整理・電子化などに使用する資金が慢性的に不足する状況となっています。そのため研究活動の資金使用のみに限定した口座を開設し、研究会の活動にご賛同いただける方から、ご支援を賜りたく存じます。カンパは1口1,000円で、文末に記載している銀行口座へお振込いただけたら幸いです。

なお、ご支援をいただいた方には、ニューズレター内にてお名前を掲載し、ご支援いただいたことを皆様に紹介させて

いただく予定です（お名前の掲載を希望されない方は事前にご連絡ください。そのように対応いたします）。また、カンパしてくださった方は、必ず本研究会宛にメールまたはお電話でご連絡ください。

本件に関して、ご不明な点がございましたら研究会編集委員の菅野智博（電話番号：080-6563-3766）までご連絡ください。研究会としても誠実かつ積極的に活動をしてまいりますので、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

「満洲の記憶」研究会銀行口座

銀行：三井住友銀行

支店：国立支店（店番号：666）

種類：普通預金

口座番号：8088124

口座名：菅野智博（カンノ トモヒロ）

会員募集及び情報配信のおしらせ

本会は随時会員を募集しています。年会費無料。会員には、ニューズレター及びイベント情報の配信を行います。入会希望者は下記の連絡先まで御連絡ください。

メールアドレス：

manshu-kioku@live.jp

電話：080-6563-3766（菅野智博）

ブログ：<http://manshunokioku.blog.fc2.com/>

Facebook「満洲の記憶」研究会

イベント情報

本研究会では下記の日程でイベントを開催する予定です。一般の方々の参加も歓迎しております。詳細はブログまたは電話でご確認ください。

- 例会：2015年6月13日（土）を予定
- 一橋祭特別講演会：2015年10月末—11月上旬を予定

《满洲记忆》（“满洲记忆”研究会通讯）创刊号
中文目录

发刊词	“满洲记忆”研究会编辑委员会
对《满洲记忆》创刊的寄望	天野博之
记大连	水野直房
大连神社调查记	大野絢也
大连神社纪念资料馆所藏文献目录	“满洲记忆”研究会编编辑委员会编
寄赠资料目录	
2013年度“满洲记忆”研究会的活动记录	
会务启示	

Memories of Manchuria (Newsletter of the Society for “Memories of Manchuria”)
No. 1 - Inaugural Issue

Contents

Introduction to the Inaugural Issue

.....	Editorial Committee of the Society for “Memories of Manchuria”
Message of Congratulations for the Inaugural Issue	AMANO Hiroyuki
Records of Dalian	MIZUNO Naofusa
Field Report on the Dairen Shrine	ONO Jyunya
Bibliography of the Dairen Shrine Memorial Archives	
.....	Editorial Committee of the Society for “Memories of Manchuria”
List of Donated Materials	
2013 Chronology of the Society for “Memories of Manchuria” Activities	
Announcements	

編集後記

2013年7月に若手研究者によって結成された本会が1年あまりの間に目を見張る活動を進めてきたことは、本誌の「2013年度『満洲の記憶』研究会活動記録」からも一目瞭然であろう。編集子もいくつかの活動に参加させていただき、彼らの瑞々しい探求心から大きな刺激を受けた。殆どのメンバーがまだ駆け出しにすぎず、試行錯誤の連続であるため、本会の活動が具体的な形として現れるまでなお少なからぬ年月が必要となろう。しかし、この地道な積み重ねが発酵して大きな成果となることを確信している。

本号には、赤間神宮名誉宮司の水野直房氏と満鉄会情報センター専務理事の天野博之氏にご寄稿いただいた。両氏からは本会の立ち上げ直後よりご助力を賜っている。両氏のご協力がなければ本号はなかったといっても過言ではない。

天野氏が明晰に指摘するように、「満洲の記憶」資料の収集は、口述記録から文献史料へと必然的に重点が移ることになる。本会ではインタビュー調査を進めて口述記録を蓄積するとともに、多くの方々のご厚意によって収集できた文献情報を本誌において順次公開していく予定である。狭義の業績には還元されない地味な作業であるが、研究情報を広く共有する上では極めて意義のある取り組みである。こうした志の高さというのも若さの特権であるので、関係各位には暖かく見守っていただきたい（F）。

『満洲の記憶』 創刊号

発行日：2015年3月15日

編集：「満洲の記憶」研究会編集委員会

編集委員：

飯倉江里衣 尹国花

大野絢也 菅野智博

佐藤仁史 佐藤量

新谷千布美 馬海龍

湯川真樹江 林志宏

発行：「満洲の記憶」研究会

〒186-8601

東京都国立市中2-1

一橋大学大学院社会学研究科

佐藤仁史研究室 気付

Tel・Fax：0420-580-8885

<http://manshunokioku.blog.fc2.com/>

◇本誌は年刊オンラインジャーナルで、毎年9月に刊行されます。本会学年暦は、毎年8月1日から次年7月31日です。

◇本誌は一橋大学機関リポジトリにおいて配付しています。

<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/27095>

◇「満洲の記憶」研究会連絡先

- ・メール：manshu-kioku@live.jp
- ・電話：080-6563-3766（菅野智博）
- ・<http://manshunokioku.blog.fc2.com/>
- ・Facebook「満洲の記憶」研究会

ISSN 2189-390X